



# RUNNER

Vol.17



## 今日のRUNNER

巢内ヒナ	2
活動の現場	4
徒然ボランティア日記	7

## ◆目次◆

オオタカは希少種か?	8
久末さんスペシャルインタビュー	10
足輪Project始動!!	11
インフォメーション	12



# 今日のRUNNER



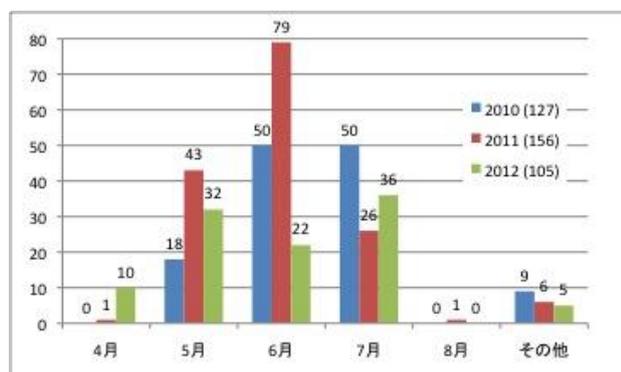
第十七走者：巣内ヒナ

ここでは保全センターに運び込まれた傷病鳥獣について保護記録やエピソードを交えてご紹介します。

## 幼鳥の保護

毎年、4月下旬頃から8月頃にかけて、保護されたヒナが保全センター（以下、センター）に運ばれてきます（図1）。多くの鳥たちは、5月に卵から孵り、7月末頃から巣立ちをはじめます。2010～2012年における保護記録はそれぞれ5月8日～7月29日、4月30日～7月31日、4月27日～7月30日と、保護される期間は毎年この時期に集中します。例外としてキジバトが挙げられ、キジバトはエサが豊富に得られる環境下では、一年を通して繁殖を行いません。センターでは、主に人為的要因（家屋の解体等で巣を壊してしまったなど）で育雛が続けられなくなったヒナ等を中心に受け入れ対象として保護を行なっています。

図1：巣内ヒナの月別救護数



※（ ）内は年度別保護合計数

## 保護から放野まで

保護されたヒナは無事育っていくつかの段階を経てから放野されます。保護されたヒナは、ある程度成長するまで保温箱内で育ちます。その後、自力で飛べる段階になってきたらケージやフライングケージ内でエサとりや飛ぶ練習を開始します。

孵りたてのヒナたちは、自分で体温調節を行なうことができません。そのため、保温箱内で温度と湿度を一定に保ってあげる必要があります。日齢の低いヒナにおいては特にこのことが顕著で、1～4日齢のヒナを20℃の外気に1時間放置すると体温が8～9℃、5日齢のヒナでも4℃も低下するという報告もあります。

ヒナたちはエサを目の前に置いても自力で見つけて食べるができないため、保護されたヒナたちに挿し餌をする必要があります。野鳥種によって、育つ環境やエサの種類が異なるため、それぞれの種に適した挿し餌を行ないます。挿し餌はヒナを保温箱から出して、ピンセットなどを用いてエサを与えるため、ヒナたちにとって大きなストレスとなります。そのため、挿し餌はできるだけ手早く行なう必要があります。

順調に育ったヒナたちは、保温箱からより広いケージやフライングケージなどに移り、挿し餌の回数を減らして徐々にエサを自分で探す訓練をしたり、飛ぶ練習を行なわせます。しかし、中にはストレスや感染症等によって命を落としたり野生復帰が遅れてしまうヒナたちもいます。

表1：巣内ヒナの救護数

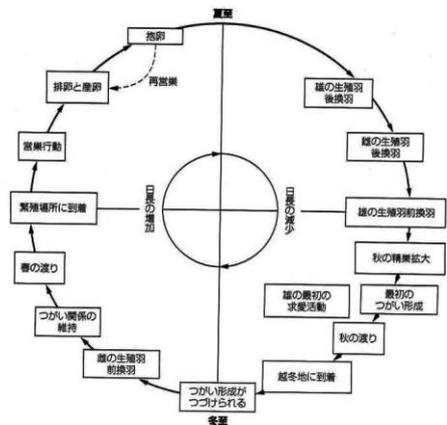
	2010	2011	2012	合計	放野率(%)
イワツバメ	1 (0)	4 (0)	2 (0)	7 (0)	0.0
オナガ	0	1 (0)	1 (1)	2 (1)	50.0
カルガモ	3 (1)	10 (2)	0	13 (3)	23.1
キジバト	10 (1)	9 (1)	6 (2)	25 (4)	16.0
シジュウカラ	5 (0)	33 (8)	13 (1)	51 (9)	17.6
スズメ	41 (4)	31 (2)	19 (1)	91 (7)	7.7
ツバメ	40 (8)	35 (12)	44 (4)	119 (24)	20.2
ハクセキレイ	3 (1)	5 (1)	0	8 (2)	25.0
ヒヨドリ	3 (0)	4 (0)	3 (0)	10 (0)	0.0
ムクドリ	15 (7)	23 (16)	16 (8)	54 (31)	57.4
メジロ	6 (5)	1 (0)	1 (0)	8 (5)	62.5

※（ ）内は放野数

野鳥の基本的な年周期

留鳥のもっとも単純な年周期は、繁殖すること、換羽すること、次の繁殖期まで生き延びることの3つのサイクルを繰り返している。ヒナは5月から6月に孵り、7月末までには巣立つ。その後8月から9月にかけて換羽を行なう。これらの年周期は、生物時計によって制御される。生物時計は日長をもとに、毎日の活動や体温の周期や太陽コンパスなどの位置情報の修正を行なう。

図2：マガモの年周期



参考文献

鳥類学 第3版, フランク・B・ギル, p.252-255

幼鳥の誤認保護

本来保護する必要はないはずなのに、保護してしまうことを誤認保護と言います。保護されたヒナを受け入れる際に、ヒナを保護したときの状況の確認を行ないます。ヒナと言えども野鳥の子ども、野生動物にあたります。野生動物には野生動物の生活があり、無闇に人が手を差し伸べるわけには行きません。

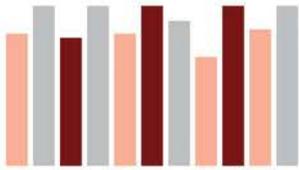
ヒナを見つけた時、周囲を見渡してみてください。巣が見つかった場合にはそっと巣に戻してあげてください。巣から転落したヒナも、巣に戻ってきたら親鳥は育雛を再開します。

スズメやムクドリなど、小型の鳥類は、戸袋の中や信号機の裏など、頭が入るくらいのスペースがあればその中に入り込んで巣作りをすることがあります。一見、こんなところに入れるのかと思ってしまうような狭いスペースであっても、ちゃんと育雛をしているというケースもよくあります。

また、巣立ちの時期が近づいてくると、ヒナは飛ぶ練習をするために巣から離れます。巣立ちヒナは飛ぶことがあまり上手ではありません。この時期のヒナを、怪我をしたのではないかと、育雛放棄を受けたのではないかと保護してしまうケースも多くあります。

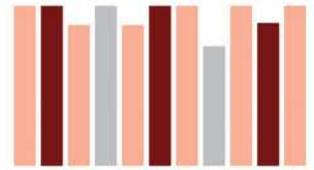
もしかしたら！？と思うようなヒナを見かけた時、ちょっと冷静になって周囲を見回してみてください。近くに巣があったり、しばらく離れていると親鳥が戻ってくるかもしれません。車に轢かれたり猫に襲われたりしないかと心配だったら、木の上などにそっと移してあげてください。

野生動物救護の目的は、「野生動物が可愛いから助ける」、「怪我してかわいそうだから助ける」ということではないと思います。本来なら生き延びたはずが人の手によって失われようとしている命を助けたり、生態系の保全を含めて環境全体を守ることが野生動物救護の本来の目的であると私は考えます。



# 活動の現場

このコーナーでは普及啓発活動やイベントなどに参加したボランティアがその体験をもとにレポートしています。



## 第2回 わくわく野鳥探検隊 報告

3月23日に2回目の「わくわく野鳥探検隊」を開催しました。身近にいる野鳥を観察したり保護されている野生動物を見学したりしながら野生動物への理解を深めてもらいました。主な内容は次の通りです。

### <探鳥会>

自然環境保全センター周辺を約2時間かけて観察しました。初めは鳥のさずりが聞こえるものの姿が見えませんが、「スズメが数羽いる」と双眼鏡をのぞいていると、ジョウビタキが近くにおり大盛り上がり。ポカポカ陽気の中歩いて行くと、「オオタカがいる!!」「どこ?どこ?」と歓声が上がリ、「鉄塔の上!」とみんな双眼鏡をのぞきました。その後用意していたフィールドスコープで順番にのぞき、双眼鏡とは違う迫力にさらに歓声があがりました。参加された皆さんは何度ものぞいていました。途中畑を通り抜け、つくしを発見したり、コガネムシを見つけたりしているとヒバリがいい声で鳴きながら飛んでいきました。ノスリなどの猛禽類のほか20種以上の野鳥が確認できました。小学生は全員昨年に引き続いての参加なので双眼鏡の扱い方にも慣れてスムーズに観察できているように思いました。

### <放野や保護動物の見学>

県職員の方に詳しくわかりやすく説明していただきながら、放野(キジバト、メジロ、ヒヨドリの3羽)の後に保護動物を見学しました。保護の原因や現在の様子、野生動物を守るためになすべきことなどを学びました。

### <どんな鳥が見られたかな>

パワーポイントで鳥の映像を見ながら、探鳥会で観察した野鳥を中心に名前や鳴き声や特徴それに見分け方、雄雌の違いなどをみんなで話し合いました。

### <足跡スタンプカード作り>

数種の足跡スタンプと色鉛筆を使って、すてきなポストカードに仕上げました。



オオタカも見えました!



保護されている動物たちについて説明を受けます



足跡スタンプ作り。上手にできました!

## 東京農業大学「野生動物救護とボランティア」講義 報告

4月23日東京農業大学の安藤先生からの依頼を受け、今年も141名の学生(農学部 バイオセラピー学科 1年生)を対象に「野生動物救護とボランティア」という題目で講義しました。

当日参加した4名が分担してスライドや動画を使って熱く語ってきました。最初に神奈川県における野生動物の救護状況を実例を交えて説明しその後、自然環境保全センターの野生動物救護ボランティア制度についての説明と野生動物救護の会としての様々な活動内容の説明、特に秦野図書館における衝突調査については現場の様子や今までの実績、今後の展望もなど含めて話しました。最後にケガから回復した猛禽類のリハビリの様子から放野までを苦労話なども交えながら説明した後、長期飼養中のコミミズクのロンくんを披露しました。学生さんたちは、私語もなく真剣な表情でそれぞれの話に耳を傾けたり、次々に映し出される野生動物たちの写真を興味をもって見てくれていたように感じました。最後にロンくんが登場した際には「ワ〜!」と大きな歓声があがり、皆さん興奮した様子でした。授業終了後には大勢の学生さんたちがロンくんを取り囲み、代わる代わる写真撮影を行うような状況で、やはり生体の持つインパクトは大きな物があると実感しました。

今回野生動物の置かれている厳しい現状と、救護の会がボランティアとしてどのように野生動物と関わっているかについて講義させていただきましたが、私たちの話を聞いて、若い学生さんたちが少しでもこの分野に興味を持ってくれたらとても嬉しいことだと思います。

このような貴重な場を提供してくださった安藤先生に、改めてこの場を借りて深く感謝申し上げます。



会場の様子



今回の講師陣



長期飼養中のコミミズクのロン

## ボランティア講習会 報告

6月2日、6月16日に2013年度 野生動物救護ボランティア講習会が、神奈川県自然環境保全センターで開催されました。この講習会は、保全センター、神奈川県獣医師会、救護の会の共催で毎年行われています。毎回多くの応募があり、今回も各回定員30名を越える受講者が集まりました。

午前中は講義が中心となり県内の救護の現状や野生動物に関する法規について、また救護ボランティアとして知っておくべき動物由来の感染症や衛生管理、幼鳥の食性や応急処置について学びました。午後からは講義と実習となり実習では3つの班に分かれエサの種類やさしえ・保定方法を体験したり、また保護棟の見学を行いました。質問もとびかい、受講者の皆さんのエネルギーが感じられました。その後は救護の会よりボランティア活動の様子をDVDや先輩ボランティアの体験談で説明しました。受講者の皆さんにより実際の活動内容が伝わったのではないのでしょうか。

新たな救護ボランティアの皆さん、今後の活躍を期待しています!!



神奈川県獣医師会 中山先生



横浜市立野毛山動物園 獣医師 近江谷先生

実習の様子



## 第6回 通常総会 報告

6月30日13時より 神奈川県自然環境保全センター レクチャールームにおいて会員総数97名中出席者数64名（本人出席9名 委任状出席55名）で開催されました。議長 渡辺みずほで議事に入り、第1議案として平成24年度財産目録、収支計算書、賃借対照表の内容報告、質疑応答を行い満場一致で承認されました。続いて第2議案として平成25年度 事業予定および収支予定を報告、満場一致で承認されました。最後に第3議案として役員の変更を行い、渡辺優子氏、佐藤信敏氏、遊佐弘司氏、佐藤幸太郎氏、平沼亜矢子氏、渡辺みずほ氏が満場一致で再選されました。また、安井啓子氏が新たに理事に加わる事も満場一致で承認されました。なお、総会後の理事会において、理事長・副理事長の選出が話し合わせ、引き続き渡辺優子氏が理事長として、佐藤信敏氏・佐藤幸太郎氏が副理事長として就任致しました。

## 鈴木茂也氏講演会 報告

6月30日 野生動物救護の会 定期総会終了後の14時より、自然環境保全センター レクチャールームにおいて、公益社団法人 日本野鳥の会 神奈川支部長 鈴木茂也氏による講演会「個体の死と個体群の維持—これから私にできることは—」を開催しました。題目は難しそうな印象ですが、フクロウやオオルリ、サンコウチョウなどの巣箱の設置など、鈴木氏がこれまで行ってきた具体的な活動を豊富な写真と共に紹介していただき、

とてもわかりやすく興味深い内容でした。特に、「1度消滅してしまった個体群を復活させるのは非常に困難であるから、今ある個体群をできるだけ減らさないような努力が必要」「野生の生態系は多様な自然の上に成り立つのが理想であるが、最近では人間の介入により単純過ぎる食物連鎖の上に成り立ってはいないか？」というお話は印象に残りました。

また、鈴木氏は海鳥の保護の為に海岸でのゴミの清掃活動も行っておられますが、今後は「ゴミを捨てさせない活動＝普及啓発活動」に力を入れたいとのことでした。普及啓発が大切であるとお話と、野生動物の保護を訴える活動は様々な苦難もあるが、あまり悩み過ぎず楽しみながら続けていきたいとお話には、私たちも大いに共感を覚えました。お話の後には、参加者からたくさん質問があがり活発な意見交換がおこなわれ、盛況のうちに終了しました。



鈴木茂也氏による特別講演

### 第3回「夏休み体験教室～野生動物を学ぶ」報告

8月3日、第3回夏休み一日体験学習を実施しました。動物大好き、元気な子どもたちが10人集合。朝は3班にわかれて、動物たちのいるケージのお掃除や、いろいろな種類の動物たちのエサを勉強したり、エサを配ったりと体験学習が中心。午前の最後の体験は、スズメ5羽の放鳥。手の中から、自然へと飛び立って行く小さな命に喜びの歓声も。

午後は、野生動物についてのお勉強。ケガの原因や対策を考えたり、いろいろなクイズから、野生動物の食べ物を考え、そこから野生動物だけではなく環境をも守る大切さを学んでもらう。

最後は、鳥の帽子をみんなで作り、記念写真。パチリ→



みんなで記念写真!!



エサについて学びました



お掃除とエサやり



ゲームをとおして野生動物や環境について学びました



鳥の帽子を作りました

### 第1回スキルアップ勉強会 報告

第1回スキルアップ勉強会を、7月25日に開催しました。テーマは「ヒナの見分け方」と言うことで、大きさの比較、羽模様、口内の色など、それぞれのヒナの持つ特徴を写真を見ながら勉強していきました。

その後、ヒナの発見者と受け側とに分かれ、電話対応のシミュレーションを行い相手に的確に伝える、相手から詳細に聞くということを体験しました。少人数のクラスなので、質問もしやすく、和気あいあいと楽しく勉強出来ました。



### 第2回スキルアップ勉強会 報告

8月31日、第2回「保定・搬送」で講師は鵜飼獣医師、参加者14名で実施しました。今回は、傷ついた野生動物を捕獲して、保定、搬送というテーマですが、怯えて暴れる野生動物を人間には危険がないように、そして野生動物には少しでもストレスがない様に保定して、簡単な体調チェック方法、治療の手伝い、搬送の仕方を学ぶという内容でした。

協力してくれた動物はドバト2羽、タヌキ3頭。参加者の皆さんは熱心に鵜飼獣医師の指導の下、動物たちと向き合っていました。今回学んだ事は野生動物救護の現場ではとても意味のある内容だったと思います。



タヌキの保定

タヌキの口輪をはめる

神奈川県自然環境保全センターでボランティアをしている S です。この春、初めてタヌキの赤ちゃんをお預かりして短期間育てる「短期飼養(里親)」をさせていただきました！約 3 週間に及んだ子タヌキとのドタバタ同居生活の様子をお伝えします。

## 2013 年 5 月 7 日(※)

今日も朝から保全センターへ遊びにボランティアに。動物たちに「おはよー」と声を掛けつつ様子を見て回っていると、保温箱の中で全身真っ黒の小さな動物がスヤスヤと眠っているではないですか！聞けばまだ生後約 1 週間で目も開いていない赤ちゃんタヌキの女の子とのこと。保全センターは夜間無人になってしまうので、夜の間ミルクを飲めない状態になっちゃうね...心配だね...と言うことでコレも何かの縁だと勝手に思い込み「短期里親をやらせてください！」と名乗りを上げました。自宅で預かるのは初めてだけど、センターでは毎年タヌキやハクビシン、ムササビなどの赤ちゃんにミルクをあげて経験を積んできたし、偶然にも前年の春には同じくらい小さな捨て猫の赤ちゃんを引き取って育てた経験もある(この猫は立派に育てて現在 4.5kg の巨漢に)。センター側で検討の結果、少しの間この小さな命を私に託していただける事になったのでした。



この時の体重  
わずか 135g

## 2013 年 5 月 8 日(※)

寝坊助の私が朝 6 時前に起きてセッセとミルク作り。まだ小さすぎて吸う力が弱いのと飲んだ量を正確に把握するために、哺乳瓶では無く 1mm のシリンジ(注射器の針のないヤツ)で授乳。食欲はあるみたいだけどまだお互いの呼吸が合わず口の横からダラ〜とミルクがあふれてしまう。上手く飲ませられなくてゴメンよ(>\_<)。そして、目頭の方から少〜しずつ目が開き始めたあ！明日にはバッチリお目々を見られるかな？今日の体重=140g。

## 2013 年 5 月 14 日(※)

同居生活開始から 1 週間。最近ではすっかり授乳の息も合うようになりスムーズにミルクをあげられる様になってきた。そして今日はセンターへボランティアに行くので仔タヌキももちろん同伴出勤。「体重は毎日 10g 位ずつ増えているし下痢もしていないので順調だね」とお墨付きをい



体重 195g  
目もバッチリ開いて可愛くなってきた

ただきホッと一安心。口の中をよく見ると、小さい小さい白い歯が生え始めてる！確実に成長しているんだね！！キミの為にもう少し頑張ろう、たとえ万年睡眠不足に陥ろうとも...

## 2013 年 5 月 21 日(※)

出ない。ウンチが出ない。これまで 1 日 2~3 回出ていたウンチがこれ 3 日出ていない。お腹もポンポコリンに張っている。心配になってセンターへ行って獣医師の久末さんに相談。診察の結果、浣腸をもらうことに。小さなお尻の穴にグリセリンと生理食塩水を混ぜた液体を入れて待つこと数秒、モリモリと大量の茶色いかたまりが勢いよく飛び出したではありませんか！「で、出た〜☆」思わず歓喜の叫び声を上げたのは言うまでもありません。本人(獣)もスッキリしたようで、この後ご機嫌で大量のミルクを飲んだのでした。良かった良かった。今日の体重=330g。最近では 1 日に 20~30g ずつ増加中。

## 2013 年 5 月 22 日(※)

歯も生え揃ってきたので離乳食を試してみる。子犬用の離乳食とミルクを混ぜて鼻の下に付けて自然になめさせようとするがプルプルと顔を振って嫌がる。指で少しだけ口に入れてあげてもイヤイヤして「そんな物よりミルクを飲ませろ」とピーピー鳴く。どうもこの子は離乳食の味が気に入らないらしい。困った。今日の体重=365g

## 2013 年 5 月 28 日(☁)

いよいよ今日はセンターへお返しする日。まだミルクを欲しがりますが少しずつ離乳食にも慣れてきたし体重も 520g まで増え、所々毛色が薄くなってほんの少しだけタヌキらしくなってきた。情を移さないつもりだったけどやっぱり少し寂しいね。朝 6 時から深夜 1 時過ぎまで 1 日 6 回の授乳の甲斐あってすくすく成長してくれた仔タヌキに感謝。いろいろ勉強させていただきました。



タヌキらしくなってきた

2013 年 9 月現在、体重 3kg を超え立派なタヌキに成長した姿をセンターで見ることが出来ます。来春には野生に帰ることになるでしょう。  
”ガンバシ仔タヌキ！強く生きるんだよ！”

# オオタカは希少種か？

現在オオタカは 1993 年に施行された「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(種の保存法)」により希少種に指定されており、捕獲や販売は禁止されるとともに生息地の保全が進められ保護されています。しかし、オオタカの生息数が回復してきているとの理由から、環境省よりオオタカの希少種の指定解除が検討されている事が発表されました。指定解除によりオオタカを取巻く環境はどの様になるのでしょうか？

## はじめに

環境省のホームページには以下のようにあります。

“環境省では、「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(種の保存法)」に基づいて、絶滅のおそれのある野生動植物種を「国内希少野生動植物種」に指定し、個体等の捕獲、譲渡し等を禁止するとともに、必要に応じ生息地等保護区の指定や保護増殖事業を実施することにより、種の保存を図っています。

国内希少野生動植物種に指定されているオオタカ (*Accipiter gentilis fujiyamae*) については、平成 24 年 8 月に公表した環境省第 4 次レッドリストにおいて絶滅危惧種(絶滅危惧 IA 類、IB 類、II 類)に選定されなかったことを受け、環境省では、今後、国内希少野生動植物種からの指定解除の検討を行うことといたしました。”

もし、指定解除が決定すれば平成 20 年にルリカケスが解除されたのに続き 2 例目となります。

## 本当にオオタカは増えている？

これまでに公表された主なオオタカの推定生息数の調査結果は以下の様になっています。

- 昭和 59 年：300～489 羽(日本野鳥の会によるアンケート調査)
- 平成 8 年：1,000 羽以上(※小板ほか：アンケート法によるオオタカの分布と生態)
- 平成 17 年：少なくとも 1,824～2,240 羽(※環境省：オオタカ保護指針策定調査)
- 平成 20 年：関東地方とその周辺に 5,818 羽(95%信頼限界：3,398～10,392)(※尾崎ほか：生息環境モデルによるオオタカの営巣数の広域的予測関東地方とその周辺)

また、神奈川県で初めてオオタカが保護された記録のある 1985 年度からの神奈川県自然環境保全センターにおける傷病鳥としてのオオタカ保護件数をグラフにしてみました。(次ページの表参照)

これらを合わせて見てみると、確かにオオタカの数が増えてきている様に見取れます。



保護されたオオタカです。生息数の増加と関連があるのかはよくわかりませんが、最近では都市部でも見かける事があるようです。

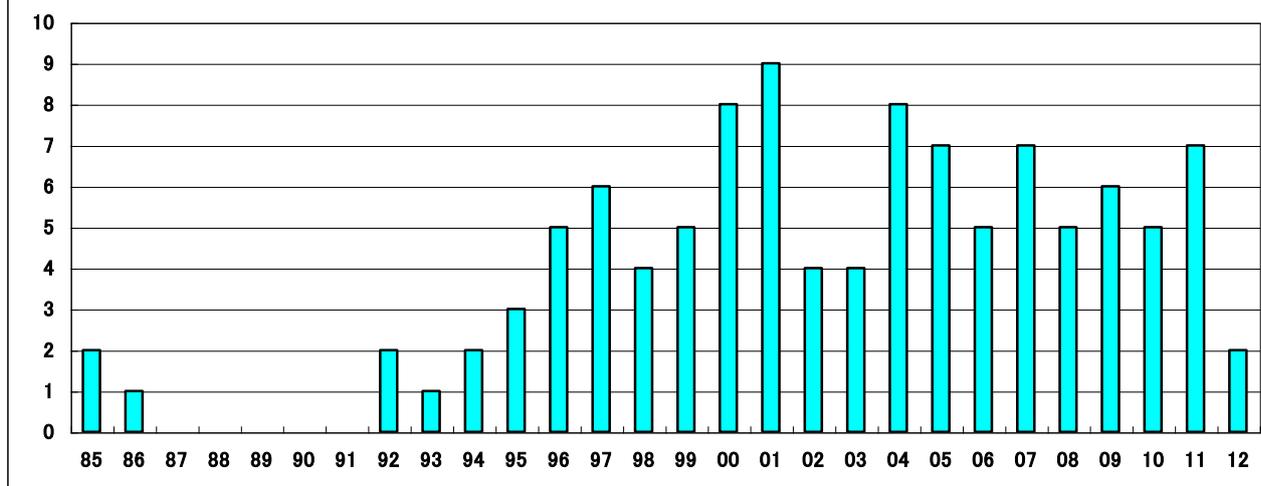
## 指定解除は適切なのか？

以前に比べ、オオタカの生息数が増えていることは事実と考えて良いでしょう。では、希少種の指定解除をするにあたって現在の状況は適切なのでしょうか？この点については様々な意見があるようです。

「オオタカの生息数が増えているのは間違いなので、指定解除の検討をするのは妥当なタイミングである」という意見がある一方で「増えているのは保護されている地域だけで、指定が解除され関心が薄れれば再び減少する恐れがある」「オオタカは密猟・違法飼育が多い事を考慮すると、生息数の増加を根拠に指定解除を行うべきではない」という意見もある様です。

実際に指定解除の是非を決めるのはもう少し先になりそうなので、どの様な議論が行われ、どの様な決定がなされるかを注意深く見守りたいと思います。

神奈川県自然環境保全センターにおけるオオタカの保護件数



種の保存法が施行された1993年度以前はオオタカの保護はほとんどありませんが、法の施行後は保護件数が増加していき、ここ数年は横ばいといったところでしょうか。あくまでも傷病鳥としての件数なのでオオタカの生息数の実態と一致しない部分もあるかもしれませんが、以前に比べ増加の傾向にあると言えると思います。私がセンターで働いていた時(07~09年度)の印象としては、オオタカは決して珍しい種ではないと感じていました。

### 指定解除後の変化は？

希少種の指定が解除されたとしても鳥獣保護法により捕獲や飼育は規制されるため、乱獲などによりすぐに数が減少するという事にはならないと思います。しかし、希少種は死後の流通にも規制がありますが、希少種から外れると死んだ個体の流通に対する規制はなくなります。オオタカの剥製などの売買を目的とした密猟が増える懸念があります。

また、希少種であれば、必要に応じて生息地を保全する事になるのですが、希少種でなければその様な対応は行われなくなります。この事はオオタカを守るという事だけではなく、自然環境を守るという意味で大きな変化になるかもしれません。

以前、長野オリンピックや愛知万博の開場予定地でオオタカの営巣が見つかりました。そのため、会場が変更になりオオタカの生息地と周囲の環境が維持されたという事がありました。しかし、その時にオオタカが希少種の指定を受けていなければ、会場の工事は予定通り行われていたのでしょうか。今後行われる大規模な開発プロジェクトの予定地に希少種のオオタカが営巣していたら、当然予定の変更が求められます。しかし、そこにいるのが希少種ではないオオタカであれば予定通りに計画は進められる事になるのでしょう。

### 終わりに

以前、絶滅危惧種であったオオタカは、対策の結果、生息数は回復傾向にあり、現在は絶滅危惧種ではなくなりました。それを受け、環境省は希少種の指定解除の検討を始めています。

これほどまでにオオタカの生息数が回復したのはとても喜ばしい事だと思います。しかし、数が増えた結果、オオタカへの意識が薄れ再び減少に転じるという事は避けなければなりません。また、これまでは「オオタカがいるから」という理由で守る事のできる自然がありましたが、今後は同じ理由では守れなくなるかもしれません。先日の朝日新聞に載っていたあるNPO 法人代表の方の言葉が印象的でした。その方は、「これまではオオタカにおぶさりすぎだった。自然保護や密猟防止には別の仕組みを整備すべきだ」と言っていました。オオタカがいてもいなくても守らなければならない自然はあると思います。では、どの様にして守るのか？なかなか難しい問題です。

今回、環境省がオオタカの希少種の指定解除を検討するという出来事が、多くの人にとって今後の環境保全のあり方を考える良い切っ掛けになってくれれば良いなと思っています。

### 参考文献

- 朝日新聞 2013年5月22日朝刊 ニュース Q3 環境省ホームページ 報道発表資料 <http://www.env.go.jp/press/press.php?serial=16718> 2013年9月16日
- 環境省ホームページ オオタカの概要 [http://www.env.go.jp/press/file\\_view.php?serial=22376&hou\\_id=16718](http://www.env.go.jp/press/file_view.php?serial=22376&hou_id=16718) 2013年9月16日
- 神奈川県ホームページ ケガや病気の野生動物を拾ったら <http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f100559/> 2013年9月16日

## 新任獣医師 徹底解剖！

# 久末さん スペシャルインタビュー



4月より新たに自然環境保全センター野生生物課に赴任された 獣医師の久末さんは一体どんな方なのでしょう？久末さんの人となりを紐解くべく行った、スペシャルインタビューの様をお届けします。

— まず最初に趣味を教えてください。

**久末** 海外旅行です。奥さんと唯一同じ趣味なんです。オーストラリアで見たウォンバットとタスマニアで見たタスマニアデビルが印象に残っています。タスマニアデビルはお尻しか見えなかったんですけどね。

— ご自分を動物にたとえると？

**久末** キウイですかね。落ちつきのないところが自分みたいだと思って。あと、飛べないところかな…。

look similar ?



— 保全センターで一番カワイイと思った動物は？

**久末** (ウ〜んとずいぶん悩んでから) タヌキかな。

— 赴任されて最初に驚いた事は何ですか？

**久末** 持ち込まれる動物の件数が多い事です。

— 保全センターで今後やってみたい事はありますか？

**久末** 傷病舎での動物の飼養管理の方法を明確にしていきたいと言うことと、ボランティアさんや職員が、仕事上動きやすい流れを作っていきたいです。

— 救護の会に期待する事はありますか？

**久末** これからも普及啓発活動を重点的にお願いしたいです。

— 4月に赴任されてから4ヶ月が経ちましたが、感想は？

**久末** この4ヶ月、ボランティア講習会の記者発表、ボランティア講習会、傷病鳥獣の受付ピークそしてやっと落ち着くかと思っていたら、昨年度の受付状況の記者発表などと、今まで経験したことのない事ばかりで、全てがゼロからの出発です〜と仕事に追われている感じです。そんな中、日常に小さな発見があり、それが楽しみでもあります。できれば、もう少し、若い時に赴任できていれば肉体的にも楽だったかも…。

— では最後にボランティアの皆さんにメッセージをお願いします。

**久末** いつもお世話になってありがとうございます。の一言に尽きると言ったら、インタビューにもっと肉付けして話せないか！！とお叱りを受けました。赴任当初全く知らない私に施設の掃除から丁寧に教えていただいたのは、S ボランティアさんでした。私はまだ4ヶ月ですがボランティアさんは十何年と通われている方もいますので、きっと私の至らないところに気付いてフォローしていただいております。感謝、感謝です。フォローも癖になってはいけませんので、こんな歳ですが、私を育てると思ってご意見等は遠慮無く言ってください。言われても、出来ることと出来ないことはあると思いますが…。本当にいつもありがとうございます。最後に、前任者も言っていますが、「先生」と呼ばないで！言い辛いのはわかりますが(さしすせそが多いので)そこを何とか「久末さん」でお願いします。



野生生物課で傷病鳥獣救護を担当しています。ボランティアの皆様の窓口も務めさせていただいています。頭の切れは良くないので、なが〜い目で暖かく見守っていただければありがたいです。

【プロフィール】  
久末修司 196☆年 1月に兵庫県に生まれる。両親は福岡出身で純血の九州男児です。父親の仕事で引っ越しが多く、福岡県、大分県、香川県と転々となりました。育ちは小学校3年生から高校3年生まで香川県で過ごし、多感な時期を過ごしました。

# 足環Project 始動!!

## 足環プロジェクトとは

足輪を付けた放鳥個体が野外で発見もしくは再捕獲等されることでその個体の生存年数、移動範囲・距離などを知ることができます。詳しくは「RUNNER」vol.16を御覧下さい。

## 2013年～足輪を付けて放された鳥たち

足環番号	種類	放鳥月	放鳥場所
A0	アオサギ	8月	海老名市相模川
A1	フクロウ	2月	相模原市
A2	チョウゲンボウ	4月	平塚市
A3	オオタカ	5月	秦野市
A5	カルガモ	6月	綾瀬市
A6	ウミネコ	6月	大磯町
A7	カルガモ	7月	小田原市酒匂川
A8	ツミ	7月	横浜市
A9	チョウゲンボウ	7月	伊勢原市
B0	チョウゲンボウ	8月	海老名市



チョウゲンボウ (A9)



\*読み方は上から「A0」と読みます。



足環を装着中



アオサギ (A0)

こんな足環をつけた野鳥を見かけたら、下記まで連絡して下さい。

NPO法人 野生動物救護の会 TEL 0463-75-1830  
e-mail : [wildrelief@kanagawa-choju.sakura.ne.jp](mailto:wildrelief@kanagawa-choju.sakura.ne.jp)

または

神奈川県自然環境保全センター 野生生物課 TEL 046-248-6682

鳥の詳しい情報はこちらに載せています。  
ブログ URL : <http://mprojectsakura.blog113.fc2.com/>

# インフォメーション

## イベント

### ◆動物フェスティバル神奈川 2013 in あつぎ

▽日時: 10/14(月・祝) 10:00~16:00   ▽場所: 厚木市文化会館 及び 特設会場  
☆「未来につなげよう動物の命」をテーマに様々な展示、講演、動物とのふれあいコーナー、卵・牛乳の無料配布などが行われます。救護の会もブースやパネル展示で出展します。  
なお救護の会が今年度の「ハーモナイズ賞」を受賞することが決まりました!

### ◆ジャパン・バード・フェスティバル 2013 (JBF)

▽日時: 11月2日(土)・3日(日) 9:30~16:00(2日)/9:30~15:00(3日)  
▽場所: 千葉県我孫子市手賀沼周辺  
☆鳥をテーマにした日本最大級のイベントです。行政・NPO・学生・市民団体などによる鳥・自然環境に関する研究・活動の発表、鳥の彫刻・絵画・写真展や、子供工作教室、船上バードウォッチングやスタンプラリーなど、お子様からご年配の方までお楽しみいただけます。  
救護の会もブース出展します。

### ◆秦野市民まつり

▽日時: 11月3日(日)  
▽場所: 秦野運動公園  
☆救護の会もパネル展示等で出展します。

### ◆探鳥会

▽日時: 12月  
▽場所: 酒匂川 周辺(予定)  
☆みんなでカモ類の観察をしましょう。

## 勉強会・講演会 等

### ◆第3・4回 スキルアップ勉強会

▽日時: 第3回 10月中旬(予定) / 第4回 11月下旬(予定)  
▽場所: 自然環境保全センター

### ◆清水小学校 自然教室

▽日時: 10月15日(火)   ▽場所: 七沢自然ふれあいセンター  
☆子ども向けに野生動物についての講演を行います。



## 保全センター大掃除

▽日時: 12月中旬(予定)  
▽場所: 自然環境保全センター 傷病舎周辺  
☆毎年恒例の大掃除、今年も行います!



## 衝突調査

### ◆秦野市立図書館衝突調査

▽日時: 毎月最終金曜日 → 今後の調査日は9/27、10/25、11/22   ▽場所: 秦野市立図書館  
▽野生動物救護の会「バードストライク研究会」では窓ガラスへの野鳥の衝突調査を一緒に行ってくれる方を随時募集しています。興味のある方は事務局までご連絡を!

詳細は当会ホームページをご覧ください

### ☆☆会員へのお誘い☆☆

当会は、ボランティアスタッフの協力と設営趣旨にご賛同いただきました皆様方の寄付によって運営されております。私たちの活動を支えてくださる賛助会員も同時に募集しています。

★一般会員: どなたでもご参加いただけます(年会費 2,000円)

★学生会員: 学生の方(年会費 1,000円)

★賛助会員: 当会の活動にご賛同いただき寄付をしていただいた方

年会費: 法人一口 5,000円 個人一口 3,000円 一口以上

【振込先】 ゆうちょ銀行振替口座 : 00270-0-47040  
名義 : 特定非営利活動法人 野生動物救護の会

発行月: 2013年9月   発行: 特定非営利活動法人 野生動物救護の会   電話: 0463-75-1830  
〒259-1306 神奈川県秦野市戸川 1086 番地の 4   ホームページ: <http://kanagawa-choju.sakura.ne.jp/>  
編集者 表紙絵: 伊熊智子(レイアウト: 平沼亜矢子)   今日の RUNNER: 松本卓巳  
活動の現場: 平沼亜矢子   徒然ボランティア日記: 神崎さつき   オオタカは希少種か?: 福富潤  
久末さんスペシャルインタビュー: 神崎さつき   足環 Project: 渡辺優子・渡辺郁美・相原夏帆  
インフォメーション: 神崎さつき   ♪Special thanks: 久末修司 さま♪